

創刊準備0号、創刊号01号にて、はやくも一部でカルトな好評を博しつつある**田舎通信**（仮題）は、この度、正式タイトルを『惑星ハシグチ』に決定しました！。勿論、敬愛するロシアのSF作家スタニスラフ・レム原作、そして、水と火と鏡と廃虚の映像詩人アンドレイ・タルコフスキー監督による映画『惑星ソラリス』（72）より、衝撃の終盤、主人公ケルピンの内宇宙が物質化した故郷イメージを拝借。このタイトルによつて、田舎通信などと言うベタな題では表現出来ない**不思議惑星ハシグチ**の様々な生感を、より自在に、ある事ない事！記述出来るのでは？と思つてます。宜しく。

惑星ハシグチ、春から初夏へ

- 四月
- 6日：お花見（稻荷神社）自由参加。姉四九日欠席。
 - 10日：無農薬農法説明会（集会所）夜7時、母私出席。
 - 12日：野焼き準備会（集会所）夜7時、惑星ハシグチ

- 20日：惑星ハシグチ大、野焼き（橋口全域）全住民男衆＋消防署10名位。朝8時～夕5時。私出席。
- 25日：農産組合（橋川内公民館）夜7時～母出席。
- 27日：白川家供養（古川寺）昼11時、母出席。

五月

- 8日：古川寺総会 母出席。
- 11日：中山間地会合（橋川内公民館）夕6時～助成金の年間使用計画検討。私出席。
- 18日：天役（餅田地域水路清掃草刈り）（朝8時～昼2時）私出席。
- 25日：大井手天役（祝橋バス道路沿い水路大掃除）私出席。

壮観！惑星ハシグチ大、野焼き

それまでは小規模で各々やってきた野焼きを、惑星ハシグチ、歴史始まって以来初めて全員でやることになった。これは、農業支援国策、中山間地支援助成金を使つての作業。日当が出る。橋口村の全ての男衆と若干の女性が早朝、村の最上手「シン堤」脇に結集、総勢30名余り。その日は天気はまあ良だが風が強い。どうなるものか？との皆の心配を他所に、計画した段取りに沿つて、田圃の土手や荒地に次々と火が放たれる。物は考え様。お陰で火の廻り速く仕事も進む。時々十数mの火柱が上がる。その橙色の火柱、薄茶色の枯草、新緑の黄緑、そして紫煙と燃殻の黒灰色、これらが一瞬ごとに変化するこの絶妙な色合いの妙！思わずその美しさに見とれる。気付くと廻りの人も手を休めて皆見てたりする。事故もなく程よい時間にて終了。それを可能にした、経験から導かれた見事な段取りと結束力にただ脱帽。そして、風、火そして水のエレメンツ、その人知の及ばない自然のチカラのお陰かと。畏敬の念の私であつた。

草刈りは地球の散髪 夏草はゾンビである。

季節が良くなると同時に夏草が伸びる。惑星ハシグチでは、これから秋の終わり頃まで、夏草を草刈り機で刈るエンジン音が、雨天以外、絶えずあちこちで響く。夏草は人間で言えば髪の毛のようなものだ。定期的刈る必要がある。そうでないと茫茫になり手に負えなくなる。夏草刈りは地球の散髪だと思ふ。誰かが刈つてやらないと地球も居心地が悪そう。草の丈が短い程、草刈り機の負担は少ない。丈が長くなると刈る

のにかなりの力と燃料を消費する。なので、負担が少ない長さの頃刈る必要がある。

夏草は、カンカン照りの苛酷な状況をもろともせず、肥料もやらないのに大変な生命力がある。それを最も痛感するのは、夏草を刈つた数日後だ。つい先日刈つたばかりなのにもう新しい草が刈り口から伸びている。草の種類によつては、全く元の丈程まで新しく復元している。何事もなかったかのようにだ。私は先日一体何をやったのだろう。まるでゾンビである。恐るべき生命力。この生命力免疫のシステムを解明し、人体に応用出来ないものか？

良心が支える 美しい日本の風景

貴方が旅先やドライブの車窓に見える田圃の畦道や棚田等、美しい日本の風景は、その地域の農家の方々の生産の副産物ともいえる、お金にならない、手間ひまかけた手入れのお陰です。放つておくと本当にアツと言う間に土地は荒れる。そうやって出来た耕作放棄地も多く、鹿や猪やスズメバチの恰好の住処になっている。美しい日本の風景はその地域の無名の農家の方の無償の良心に依つて支えられていて、という事実を認識し知ってもらえたら嬉しい。アララ何だかマジメっぽく終わった！